

「家がいいね」 第106号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013. 3. 5

いのちの花は咲く

東日本大震災のあの日が巡ってきます。NHKでも多く流され、今春の選抜高校野球大会の開会行進曲のテーマにもなる唄が、「花は咲く」です。

全曲歌詞を見て、かつ聴く

機会がありました。震災に限らず全ての人の生死の鎮魂歌と感じました。数にまとめられない個々のいのちの物語があります。その場を動けない花に、動ける私たちが、魂を揺さぶられ癒されます。



真つ白な 雪道に 春風香る

わたしは なつかしい あの街を 思い出す

叶えたい 夢もあった 変わりたい 自分もいた

今はただ なつかしい あの人を 思い出す

誰かの歌が聞こえる 誰かを励ましてる

誰かの笑顔が見える 悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く わたしは何を残しただろう

夜空の 向こうの 朝の気配に

わたしは なつかしい あの日々を 思い出す

傷ついて 傷つけて 報われず 泣いたりして

今はただ 愛おしい あの人を 思い出す

誰かの想いが見える 誰かと結ばれてる

誰かの未来が見える 悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く わたしは何を残しただろう

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く わたしは何を残しただろう

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く いつか恋する君のために

降りてゆく道に標がない

在宅医の先輩、岡部健医師は自らも胃がんを患い、仕事をしつつ昨年9月に亡くなられました。登山の好きな彼は

患者さんの行く道は両側が切り立った尾根で、生の方へ降りてゆく路には道標があるのに、止む無く降りる反対側には道標すらない、と例えました。最期までを付き合う在宅医は、医療の限界も知らなければなりません。祈りや支えとなる人（臨床宗教師）の導きが必要だと、岡部さんは実際に心を砕かれました。また在宅では**お迎え体験**が、患者さん本人の心を穏やかにしてくれようと、その研究の先鞭をつけられました。**お迎え**は病院では抑えられるか、**せん妄**と扱われるものです。本人が穏やかに死に向かうのに、見守る家族に不安が湧き上がるのは、この数十年間、家から病院へと死を遠ざけてきた社会全体の影響でしょう。

建物を作れば中身は整う、のかな？

伊勢市にとって必要な病院のほすの、市立病院がピンチになっています。常勤医師が減るのに歯止めがかからず、救急当番日には内科医師は外部の助けを得て対処しています。こんな中で病院の建て替え案が出たので、説明会に参加して資料も読みました。赤字を覚悟で、今以上に立派な建物と、診療料がそろつとの説明です。できることならば頑張ってほしいものです。しかし、現状をどのように克服し5年後につなげてゆくかの内容不足なので、実現への不安が残ります。他人事でなく、伊勢の市民自身の宿題です。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>



作詞：岩井俊二 作曲：菅野よう子
歌：花は咲くプロジェクトの方々